

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	放水、検索活動中、空気の流入により急激に燃焼拡大した事例
3. 体験した事例の中心的要素	消防隊員が屋内進入し、放水および人命検索の活動中に、後着した他隊の隊員が進入口でない開口部を開放したことにより、空気が流入し急激に燃焼拡大したため緊急避難したもの。
4. 体験した事例の原因・理由	活動統制情報の不足。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 11 年 10 月 15 日 午前 9 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋内：木造平屋 1 階
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	火傷・熱傷、
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、 [木造建物]
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	人命検索、放水活動、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[26]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[4]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[27]歳、 勤続年数[3]年、 現場経験年数[3]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	隊員と二人で屋内進入。 放水、人命検索を行う。	
経過 2	B	後着し、A達が屋内進入してると知らず、 放水するために別の開口部を開く。	
経過 3	A	急激な空気の流入によって、火煙が爆発的な 燃焼を起こしながら天井へ上がるのを確認。	
経過 4	A	一緒に進入していた隊員と緊急脱出をする。	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。現場周辺の地理を知っていた。たまたま、負傷事故にならなかつた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 はい
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 いいえ
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 いいえ

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあつた。	はい
・指示内容が実施困難であつた。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

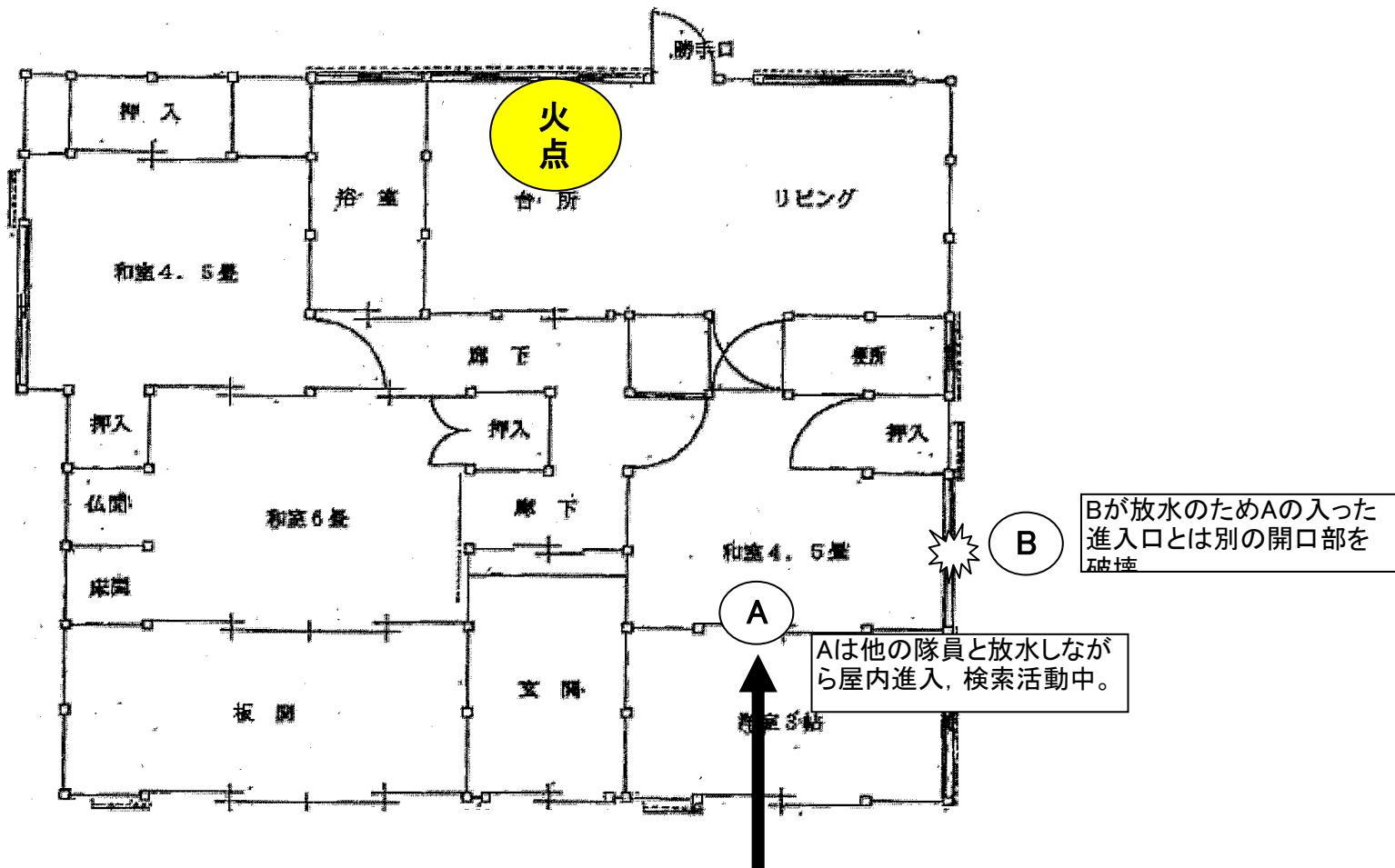
k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があつた。

--



○ヒヤリハット事例：放水、検索活動中、空気の流入により急激に燃焼拡大した事例
(同様の体験は、初めて体験した。)

(09H0098)

・発生日時：平成11年10月15日 午前9時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		隊員／消防士 ・年齢 26歳 ・勤続 4年 ・現場 4年 ・同様の活動：1年に数度	隊員／消防士 ・年齢 27歳 ・勤続 3年 ・現場 3年 ・同様の活動：1年に数度	
活動中期	一般建物火災の出動指令			火災への消防出動
	木造平屋	現場到着		
		他隊員と二人で屋内進入 放水、人命検索を行う		
			後着	
			放水するため別の開口部を開く	隊員A達が屋内進入してると は知らない 活動統制情報の不足
	急速な空気の流入によって、火煙が爆発的な燃焼			
		火煙が爆発的な燃焼を起こしながら天井へ上がるのを確認		
		一緒に進入していた隊員と緊急脱出		

○ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因：情報入力に問題があった。
 - ・危険情報を把握、予見できた。
 - ・集中力、注意力があった。
 - ・現場周辺の地理を知っていた。
 - ・危険事象の対応方法を知っていた。
 - ・避難・退避がうまくいった。
 - ・たまたま、負傷事故にならなかった。

○ヒヤリハットが起きた背後要因

(心理・体調について)

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
- ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。
- ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- ・活動に対する経験が不足していた。

(装備・資機材について)

- ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。
- ・装備・資機材の対処能力を超えていた。

(活動環境について)

- ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。
- ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
- ・狭隘な場所であった。
- ・暑かった(寒かった)。